

- ・事務所ニュース
- ・事務所からの連絡
- ・From Project / 上村三郎専門家
- ・ボランティア通信 / 中村有希隊員
- ・着任挨拶
- ・離任挨拶
- ・My Favorite / 戸田陽一郎専門家



事務所ニュース

「北部スーダン保健人材育成情報収集・確認調査」実施！



5月29日～6月27日にかけて、今後の保健分野における協力の方向性を確定すべく本調査が行われました。保健計画と医療機材維持管理の観点から、コンサルタント2名、官団員3名が、ハルツーム州、セナール州、ジャジーラ州、リバーナイル州において保健省、大学、教育病院や地方病院などを調査しました。今後は母子保健を中心としつつ、病院管理(5S)や医療機材(管理)に関する支援など、母子保健をサポートする協力も実施していく方向が確認されました。

詳細はJICA事務所担当西本・高橋まで。

カッサラ州「基本行政サービス向上復興支援プロジェクト」ミニッツ署名！



6月19日～25日にかけて東部カッサラで、カッサラ州「基本行政サービス向上による復興支援プロジェクト」について連日各省庁、関連ドナーと協議を重ねました。プロジェクトは、水・農業・保健・職業訓練の4分野に加えて、州財務省支援も入った協力案について大枠合意し、24日にミニッツに署名がなされました。プロジェクトは年内開始予定で、カッサラ州には2名の長期専門家が駐在し、各分野の短期専門家が派遣される予定です。

詳細はJICA事務所担当、山田まで。

事務所からの連絡

7月の予定

- 7月2日(金) 石井満美専門家<マザーナイル・プロジェクト・コミュニティ強化担当> 着任
- 7月2日(金) 縄田宏史教授<ストライゴプロジェクト> 帰国
- 7月11日(日) ダルフール3州への水分野機材引渡式典<ダルフール及び暫定統治三地域人材育成プロジェクト>
- 7月11日(日) 阿部次長 離任
- 7月14日(水) 齊藤正和専門家<水供給人材育成プロジェクト・井戸管理コース> 離任
- 7月24日(土) 坪井達史専門家<ウガンダ・ネリカ米振興プロジェクト・稲作専門家> 来訪(～30日)
- 7月28日(水) 荒木京子専門家<病院管理のための5S活動> 離任



いろいろなプロジェクトの専門家の方々から、スーダンで活動する中で感じるさまざまな思いや発見などを綴っていただくコーナー。

初回は、水供給人材育成プロジェクトの上村専門家です。

カウンターパートの変化と人材育成プロジェクト

人材育成がどこの国及び組織においても極めて重要であることに誰も異論は無いであろう。特に途上国における人材育成は急務であり、JICAはこれまで数多くの途上国で人材育成プロジェクトを実施してきた。

スーダンにおける「水供給人材育成プロジェクト」は2008年6月に開始され、現在3年目の活動を迎えている。これまで、本プロジェクトでは日本人専門家がそれぞれのカウンターパートに対して、研修実施能力を高める為の技術移転を実施してきた。しかしながら、実態は日本人への依存体質がなかなか抜け切れず、専門家は2年次までセンターの自立発展性を危惧していた。このような状況下、2009年5月にセンター長と総務部長を、そして2010年5月には6名の研修管理責任者を日本に送り込んだ。

2009年に実施されたセンター長、総務部長の研修態度は驚くべきものであった。研修生は開始5分前に集合し、熱心な質問とポイントのメモ取り、最終日には研修受入先へのお礼状と報告書の送付等を実施した。これに対して、研修を担当したJICEの研修監理員より「このような素晴らしい研修生に初めて出会いました。」と賞賛をいただいた。このスーダン人のまじめな研修へのDNAは2010年の本邦研修でも発揮され、6名の研修生は前年と同じような真摯な態度で研修に臨み、受入機関から高い評価を受けたのである。

2回に渡る本邦研修の成果は顕著に現れた。まず、2009年の本邦研修から戻ったセンター長は意識が大きく変化しており、早々にセンターの組織管理強化と清掃及び美化の徹底を実施したのである。そして、部下の管理にも積極性が出てくると共に、研修センターのトップとしての自覚が急激に芽生えてきた。

2010年度においては、これまた、大きな変化が本邦研修の前段で確認された。特に、若いスタッフの変化は大きく、彼らはスーダンに帰国後、これまで以上に積極的に様々な業務を実施するようになった。同時に、彼らは「先を読んだ業務」を展開するようになってきたのである。



真剣にメモを取るセンター長と総務部長
(2009年5月)

人材育成は短期的な視点や活動で達成されるものではない。私達のプロジェクトにおいても、信頼関係の構築に1年、機材調達や研修施設の整備に1年、そして本格的な研修が実施できるようになったのは、2年目の活動の後半からであった。イスラム圏での経

水供給人材育成プロジェクト

総括 上村 三郎

験が少ない専門家は、当初独自の信頼関係の構築に戸惑うことであろう。しかし、この儀式を通過しない限り、アラブの世界でのプロジェクトはスムーズに進展しない。

私は、本プロジェクトに対して専門家全員が情熱を持ってカウンターパートと接してきたことを熟知している。このような積み重ねが3年目にして大きく花開こうとしている要因である。是非今後の活動にご期待ください。



スーツとネクタイで決めた研修生
(2010年5月)



上村三郎

うえむら みつろう／1958年5月5日生まれ。熊本県出身。技術士(応用理学)。

水業界において世界を駆け巡り、初めてのスーダン赴任は、1987年10月。2008年6月より現在のプロジェクトに従事。

趣味は読書、ゴルフ、料理と居酒屋店主。

中村有希 隊員(スーダン大学・体育) ワークショップの1日

6月21日に10ヶ月の活動を終えて帰国した中村隊員。

帰国前、中村隊員の活動先であるスーダン大学・体育の授業におじゃましてきました。

この日は、昨年末にエチオピアで開かれた広域研修にカウンターパートとともに参加して学んだことを実践・普及するため、4年生を対象にしたワークショップを開催。その様子をお届けします！

広報:今日のワークショップはどんなことが目的ですか？

中村隊員:この学生は卒業後に地方の学校に赴任することも多く、その場合道具がなくて授業が出来ないケースが多いんです。そのため、ボールやコーンの作り方、その他ボールの代わりになる道具(フリスビーなど)の作り方を学び、実際にその道具を使ったゲームの紹介を中心にワークショップを行います。

ということで、さっそくワークショップ開始！

まずはカウンターパートと一緒にお手本を紹介。

最初はペットボトルを使って、ボールをつくりまーす！



同じくペットボトルと新聞で“コーン”。

最後にダンボールを使って“フリスビー”のできあがり。



ボールとコーンを手にする学生。

実例を示したあとは、みんなで実践！

グループにわかれて工作開始です。

「アイデアを出し合って、お手本以外のものも作ってみよう！」との中村隊員の指示のもと、いろいろな道具を作成する生徒たち。



全員の前で制作物を発表したあとは、作った道具を使ってみます！



ダンベル！！



バスケットボール！！

ワークショップ終了後、カウンターパートであるサラ先生と中村隊員にインタビューしてみました。

広報:イスラム教が浸透しているハルツームで、学生が男女一緒に体育授業をやっているのに驚きました。ふだんの活動(授業)で何か不都合なことはありますか？

中村隊員:水泳と器械体操は男女別、1時間ずつわけてやっています。女子学生に対しては、女性の先生のみが教えることになっているので、時間割を組むのが大変です。そのほかは、先生たちは向上心がとても強く、積極的に協力してくれました。エチオピア広域研修後に先生を対象にした還元ワークショップを開催したのですが、その際なども積極的に参加してくれました。

広報:10ヶ月の活動の終盤を迎え、今後スーダン体育のどんなところが改善されるとよいと思いますか？

中村隊員:スポーツテストを実施していますが、何を測定してるのかわからない部分があります。データを取っても活用されてるのかわかりません。日本人の平均値を出したスポーツテストマニュアルを作成したので、それを参考に意味のあるテストを実施していただきたいです。

広報:サラ先生、いろいろな国から集まったエチオピア研修はどうでしたか？何を学びましたか？

サラ先生:たくさん新しいアイデアをもらえて、よい経験でした。早朝から夜まで、スケジュールがぎっしり組まれてタイトでしたが、それもよい経験だったと思っています。

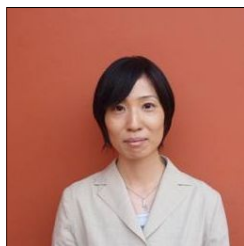
広報:JOCVと一緒に仕事をして、どうでしたか？

サラ先生:器械体操の先生が日本から来ると聞いた時は本当にうれしかったんです。ユウキからは体育についての新しいアイデアだけでなく、生活の中でのことも多く学んでいます。たとえば、時間に正確なこととか。もうすぐ帰ってしまうけれど、また2年のプログラムで戻ってきてほしいと思っています。

カウンターパートのサラ先生と
中村隊員。



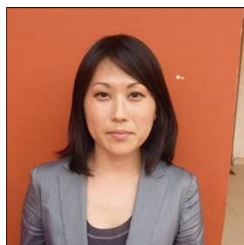
着任 挨拶



三嶋あずさ 専門家 (在任期間:2010.6.29~9.4、10.2~12.3)

<「農業再活性化計画」実施能力強化プロジェクト>

カッサラの農業再活性化のために、12月までカッサラに滞在します。短い間ですが、よろしくお願いします。



小野里宏代業務調整員 (在任期間:2010.6.30~2012.6.29)

<「農業再活性化計画」実施能力強化プロジェクト>

新しく始まった農業プロジェクトの業務調整で農業省に入りました。2年間よろしくお願いいたします。

離任 挨拶



鳴海ゆきの 企画調査員(在任期間:2008.6.9~2010.6.6)

企画調査員として2008年6月から2年間ハルツームのJICAスーダン事務所にて勤務いたしました。再会間もないJICAスーダン事務所が急速に大きくなっていくダイナミックな過程に関わることが出来、自身の開発援助人生においても大変チャレンジングな期間をスーダンで過ごすことが出来ました。病気も無く、充実した2年間を送ることが出来たのは支えてくれた家族・友人・同僚・カウンターパートのおかげです。改めて御礼申し上げますとともにいつかまた経験を積んで恩返しが出来たらと切に願っています。お世話になりました。また世界のどこかで再会できる日を願っています。



中村有希 青年協力隊・体育(在任期間:2008.8.26~2010.6.21)

イエメンでの自爆テロ勃発による一時退避を機にスーダンへ任国変更し、10ヵ月間スーダンで活動させて頂きました。当初はこの暑さの中、体育の授業が本当に行えるのか不安ではありましたが、やる気のある同僚にも恵まれ、充実した活動生活を送る事が出来ました。スーダン人の温かさを胸いっぱい詰めて、こんがり焼けた肌で日本へ帰りたと思います。本当にありがとうございました。

My Favorite

戸田陽一郎 専門家
(ダルフル及び暫定統治三地域人材育成プロジェクト)

私の最近のお気に入りスポットは、カフェテリア「Sedi Elsalawi」です。青ナイル川近くの官庁街には飲食店が少なかったのが、非常に助かっています。2010年1月から営業を始めたこのカフェテリアは、(スーダンの)朝食時には周辺の省庁やUNの職員でいっぱい。瞬間に地域の人気スポットとなりました。シュワルマやマンディ等の幅広いメニューの中でも私のお気に入りにはフル！トマト、きゅうり、たまねぎ、チーズ

等が入った具沢山フルです。

ちなみに店員のみんなからは「ジャッキー！(東洋人と言えば、ジャッキー・チェンですね)」と呼ばれ、すっかり常連客の一人となっています。



編集後記

JICAスーダン事務所ニュースレターが始まりました。第一号の発行にご協力くださったみなさま、ほんとうにありがとうございました。最後まで読んでくださったみなさまも、ありがとうございます。今後とも、末永いお付き合いを！
次号は8月です。

JICA Sudan News Letter/vol.1
JICA Sudan Office
House#14, Block #10, St.49
Amarat, Khartoum, Sudan

発行: 広報担当